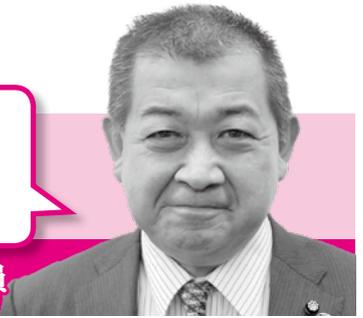


安全安心な上水道の未普及地解消を

蒼生会 真崎 寿浩 議員



市長

上水道への加入動向と老朽管更新との優先度を検討し判断する

神代全体全域の水道計画について

質問 年度ごとの計画も含め、住民への事業の進捗状況の説明は十分なのか。

答弁 現在、未普及地解消事業を行っている卒田地区については、一部進捗の遅れがみられ、令和7年度完成を目指して実施しているが、昨今の物価高、人件費の高騰により、計画事業費内での完成が難しい状況である。今後、国・県と協議し、事業費の増額及び期間延長等を検討していく。決定次第、加入予定者の方々に周知していく。

質問 現在工事中の卒田地区の真崎地下道付近で水道管の敷設がストップしており、管が繋がっていないとの情報を付近の住民から聞いたが、状況について伺いたい。

答弁 (建設部長) ご指摘の真崎地下道を利用して



■予定を変更し水道管敷設が迂回された真崎地下道

の水道管延伸工事については、鉄道の下を通って管を延伸する予定だったが、工事費が高いことから、迂回という形で工法を変えて延伸工事を行う予定である。

質問 令和5年度までに上水道に加入意思のある世帯に対しては、再調査を行うとしているが、再調査は行ったのか。また、調査結果はどうであったか。

答弁 令和6年度以降に計画のある卒田地区、角館東前郷地区については、再意向調査を実施中で、回答期限を3月

末としている。至急調査の結果をまとめ報告することにしていく。

質問 今回の計画から外れた上水道未普及地域の対応はどのように考えているのか。

答弁 未普及地域からの要望や緊急度合い等を調査、検討し、次期の水道事業基本計画に取り組むことになるが、多額の費用をかけて整備したにも関わらず整備後の加入率が低迷しており、事業実施にあたっては、慎重にならざるを得ない状況である。

質問 神代地区で公共施設が集中している場所(神代出張所・学校等)は優先的に上水道を供給するべきと考えるが、敷設の考え方と必要性について伺う。

答弁 この場所は水道事業基本計画の中で、未普及地域解消事業地区の一つであり、今後、意向調査を実施し加入動向等を調査したい。

一方、現在多くの市民が利用している既存の水道も、老朽管等の更新が急務となっており、これらの更新事業も非常に重要であるため、基本計画の見直しを行い、総合的に検討し判断していきたいと考えている。

井戸水のピロリ菌対策について

質問 神代地区に移住を予定していた方が、井戸水でのピロリ菌に対して不安を拭えず、移住を断念したと聞いて、非常に残念だと思っております。このことについてどう思うか。

答弁 地下水イコールピロリ菌ということではないと認識している。特に美郷町は清水の郷として、優良な地下水を利用しての造り酒屋や食品会社が事業を行っている。もし、神代地区の地下水に何か問題があれば、それはまた別に検討する必要があるのではないかと。

また、これまで強い要望があり、多額の費用をかけて上水道を敷設したところ、地下水のポンプが動いているうちには、まだ上水道は使わないという方々が大半であると把握している。今後は、能登半島地震での教訓を生かし、耐震対応の水道管の敷設の重要性にも重きを置き、水道事業基本計画の再考を検討している。

(澤田雅亮記)



西宮三春 議員

園児の布団が不要になるお昼寝コットの導入を

市長

保護者の負担軽減と衛生面から導入を検討する



■タオル2枚程度の持参で済むメッシュで水洗い可能なお昼寝コット

子育てしやすい仙北市を目指して

質問 ①子どもの障がいのある無に関らず、希望することも園に入園できているか。②令和5年度の保育士の現状と年度途中の入園希望の現状について

答弁 ①担任以外に園児をサポートする保育補助職員を有効に配置し、障がいのありなしに関らず、希望する園に全員入園できている。②保育士は、公立3園が32人、はなさき仙北5園が113人の合計145人である。年度途中の入園希望は、61人で入園できたのは53人。待機児童は8人いる。

質問 お昼寝用の布団類の運搬が、保護者の負担になっているが、北秋田市で使用している、衛生的で水洗いもできる簡易ベッドのお昼寝コットを導入してはどうか。

答弁 お昼寝コットは簡易な上、衛生的で布団も不要になり、保護者の負担軽減になる。問題点を洗い出し導入に向けて検討したい。

安心して利用できる公共施設管理について

質問 今年度、消防署から危険物取扱者が不在で指摘を受けた施設は改善されたのか。また、今後の資格取得に向けた方向性について伺う。

答弁 危険物取扱者が不在だった公共施設が10施設あり、4施設が改善された。今後は、小・中学校の校務員は全員が資格取得できるよう調整している。他の対象施設も資格者が不在となる場合は、対象施設の職員が資格を取得することとしたい。

質問 地下貯蔵タンク漏れの防止措置期間が迫っている公共施設があるが、※内面ライニング措置等は検討しているのか伺う。

答弁 令和6年12月が措置

期限である田沢湖活性化センターの地下タンクは、現在、使用しておらず廃止する。他の施設についても、措置期限を確認し、内面ライニング措置等を検討している。

さらなる防災強化に向けて

質問 ①災害備蓄品に、夜用生理用品や授乳用品を拡充するなど、女性の声を取り入れているか。②各庁舎への分散備蓄の見解。③今年度の避難訓練の課題と消防署からの指摘事項。④令和6年度の避難訓練の計画、市職員へ防災士の資格取得を勧め、防災強化を図ることへの見解について伺う。

答弁 ①災害備蓄品は、避難所運営を経験した女性職員や女性消防団員の指摘や提案を受け、拡充・改善に努めている。②これまでの避難実績などを勘案し、一定数を各庁舎等に分散備蓄する。③角館庁舎での火災避難訓練では、来庁者の避難誘導が一番の課題だった。消防署からも、来庁者への避難を促す声掛けや、行動をとる職員がいなかったことへの指摘を受けた。④昨年

6月に実施した職員向けの避難所開設訓練を継続して実施する。また、大仙市、仙北市、美郷町合同の総合防災訓練を10月以降に実施予定である。職員の防災士資格取得については、資格取得の重要性を啓発することも大切な取り組みと考えている。

質問 女性の救命率を上げるため、市内公共施設に設置のAEDに三角巾の設置を要望する。

答弁 女性への装着時におけるプライバシー保護の観点からも、早期にAEDケースに三角巾を導入する。

田沢湖地区の今後の施策について

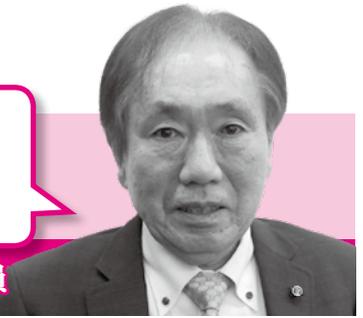
質問 国・県の補助金等を活用しての、令和6年度の田沢湖地区の地域振興策を伺う。

答弁 国の交付金を活用したインターナショナルスクール誘致の取り組みを加速化させる。スクール卒業生の受け皿となる企業誘致の提案があるなど、地域が大きく活性化する可能性があり、千載一遇のチャンスと捉えている。

(高橋輝彦記)

質の高い観光地を目指した高付加価値化とは

中村和彦 議員



文化
観光
スポーツ
部長

民間宿泊施設などの高級化を進め、
稼げる観光地を目指す

観光振興について

質問 安心・安全を基軸とした観光誘客体制の整備を行う所はどこか。

答弁 桜並木駐車場やアルパ駒草の部分改修、和賀岳の登山道整備、抱返り遊歩道の防護柵改修、玉川温泉歩道整備工事を行う。

質問 質の高い観光地を目指して高付加価値化を進めるとはどういうことか。

答弁 (観光文化スポーツ部長) 観光消費額の向上や観光客満足度の向上を目指す取り組みである。観光事業者と一体となつて、民間宿泊施設などの高級化を進めて稼げる観光地を目指したい。

質問 歴史的文化遗产の具体的な活用を伺う。

答弁 (観光文化スポーツ部長) 文化財をいかに活用するか、現在策定中の文化財保存活用地域計画を基にまちづくりにつなげていきたい。

質問 武家屋敷に集中している観光



地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業
仙北田沢湖エリア 地域計画

■国の付加価値向上支援を活用し稼げる観光地へ

客を分散するため、外町地区を景観重点地区に指定することを考えているようだが、具体的な案を伺う。

答弁 角館駅から中心市街地を通つて武家屋敷に行く動線を作つていく施策が重要と考えている。滞在期間延長には、外町地区を景観重点地区に指定したいが、令和4年度に行つたアンケート調査では、回答率が2割、市民との意見交換会も企画したが、参加者が少なく、市民との合意形成には、時期尚早と判断した。

質問 ユネスコ無形文化遺産角館のお祭りや会館建設を今

後どのように進めていくのか。

答弁 お祭りの運営は、角館祭りのやま行事実行委員会、保存や伝承は、角館のお祭り保存会が担つており、それぞれの自立性を尊重しつつ、サポートする立場である市や関係する各団体とも一丸となつて取り組んでいく必要がある。会館建設については、進展していない。引き続き財政状況の改善度を見ながら検討していきたい。

教育行政について

質問 公民館活動において、若者が参加しやすい講座の内容を伺う。

答弁 (教育長) 10代から20代を中心に体を動かすスポーツ分野、手芸などのものづくり、社会人向けに役立つ実用的な分野を想定している。

質問 ※コミュニティ・スクール推進に、担当教師の残業増や負担増にならないか伺う。

答弁 (教育長) 年3回ほど学校運営協議会を開き、授業参観も併せて行うので、日中開催が多い。教員は、学校と地域の思いを共有できる数少ない機会を有意義な時間と捉え

ている。負担感はあると思うが、教員には頑張つてほしい。

質問 中学校部活動指導員100%にするための必要人数と配置を伺う。

答弁 (教育長) 国の基準1校1名配置に基づいて市内全てに配置する。予算は、国・県・市の負担が三分の一となる。角中は、市費負担で1名加配する。

市職員について

質問 職員の日直業務の委託について、検討結果を伺う。

答弁 勤務体制は各庁舎2名である。日直手当てが年間320万円ほどになる。戸籍関係の届け件数も年間角館庁舎約110件、西木・田沢湖は20件ほどであり、見直す必要がある。令和7年度に実施する。

質問 職員の遺憾な事案が、二度と発生しない取り組みを、市民に向けて本気度を伺いたい。

答弁 市長として、再発防止に全力で取り組むことが私の使命だと考えている。

(平岡裕子記)

用語
解説

※コミュニティ・スクール…地域住民や保護者等が学校運営に参加する合議制の機関である学校運営協議会を設置した学校



澤田 雅亮 議員

ふるさと納税が廃止されたら…

市長

臨時的な財源に依存しない 持続可能な財政構造の確立に努める

ふるさと納税について

質問 ①ふるさと納税がない場合、財政破綻の可能性は。また既存事業、新規事業の継続・施行ができなくなるのか。②手数料を引いて実際に使える金額は。③年間貯蓄の想定額について。④令和6年度の寄付額はいくらを指しているのか。

答弁 ①ふるさと納税がなければ現在と同規模の予算を確保することができず、市民サービスに重大な影響を及ぼしていたと認識する。②令和6年度当初予算には、10億2,706万円を寄付者の指定するメニューに応じた事業に充当している。令和5年度の寄付額は24億円を超え、返礼品や経費等を除くと、概ね11億円が基金積み立て後に一般財源として使用できる。③一般的に財政調整基金残高の目安とされる標準財政規模の10%から20%、11億円から23億円を常時確保している状態にしたい。④当初予算に計上の15億円を最低ラインとし、今年度



■秋田大生デザインの樺細工カレンダーはふるさと納税返礼品の限定品

並みを目指しに取り組む。

仙北市職員の残業について

質問 ①令和5年度は1割の残業カットを目指すと言っているが、予定カット時間、歳出は。②サービス残業の問題など一部職員の負担増に繋がる懸念はないか。

答弁 ①残業時間は前年同月比較で約8%の縮減、令和3・4年度の時間外勤務手当の総額平均は約8,600万円、令和5年度は1月までの集計で残業代が17%カットできる見込みだが、令和3・4年度

の複数の選挙事務や、災害対応に係る時間外勤務を除いて試算すると5%の削減となる。②時間外勤務の際は、所属長の事前決裁後、勤務を行うことが基本だが、近年管理職の時間外勤務増加が顕著に見られる。

仙北市職員の組織改革と育成、チャレンジ精神の向上について

質問 ①令和5年度の年代別離職者数、受験者数と合格者数の推移について。②人事評価査定基準と、前市政と評価の違いはあるか。③今後の若手職員の育成について。④農林商工部を市の産業に直接的・機能的に組織改編する案について。

答弁 ①退職者は増加見込みで、令和5年度の大卒の受験者は14人、合格者4人、採用者3人。②人事評価実施要綱運用手引きを基準とし、前市政と大きな違いはないが、今年度人事評価システムを導入した。③政策形成力、行程管理能力、ファシリテーション力など、政策人材育成を推進する。④農林商工部は、生産者・販売者の強みを生かし、引き続き生産者組合、商工会と連

携していく。組織の在り方については今後も検討していく。

地域振興策について

質問 ①サテライトオフィス誘致企業で進出した企業数は何社か。また、現段階で進出が決まっている企業はあるのか。②インターナショナルスクール誘致の今後のスケジュールは。③企画部の人員確保と、人材育成の進め方は。④空き家バンクの利用状況と利便性について。

答弁 ①(株)リベンリと嘉創(株)が角館駅前のシェアオフィスに進出し、さらに複数社が進出に前向きな姿勢を示している。②1月に開催したツアーでサマーキャンプ地として検討したい申し出があった。また、学校設立に前向きな法人については、地元事業者と具体的な交渉に入っている。③企画部は事業初動部署であるが、人事関連部署や政策支援アドバイザーと連携し、さらなる強化を図る。④令和6年度は、移住空き家ワンストップセンターの整備を進めたい。

(西宮三春記)

仙北市民会館の計画的な改修を

田口 寿宜 議員



市長

今後も安心・安全に使い続けるため 責任を持って取り組む

令和5年第6回定例会の一般質問を振り返る

質問 田沢湖・角館間は命をつなぐ路線である。どのような検討をしているのか伺う。

答弁 田沢湖地区から角館総合病院への交通手段の要望があると認識している。需要数や需要のある地域などの詳細な調査を実施し、その上で市民バス方式が良いか、デマンド型乗合タクシーが良いかなど、費用面と利便性を比較して検討する必要があると考えている。

今後はたつこちゃんバスを小型化の上、2台体制にする、もしくはNPO団体での運行も含めた新たな方式やデマンド型乗合タクシーの導入について、引き続き検討を進め、早期実現に向けて取り組んでいきたい。

質問 市民会館の緞帳（ぶどうちやう）の設置費用が4億5千万円との答弁があったが、最低限の修繕で88万7千円の見積りを確認した。最低限の修繕に予算をかけることができな理由と今後の改修について伺う。

答弁（教育長）88万7千円は、緞帳をワイヤーで固定する落

下防止のみの経費である。上げ下げを操作する制御盤の改修が必要であり、この予算のみでは計上していない。

舞台吊り物関係の改修計画は、舞台にある緞帳、スクリーン等の電動化、反響板装置の設置、傷んだ緞帳の補修などの改修や漏電対策等で4億5千万円程度の金額となる。改修する場合は、長期休館とならないよう、安全を確保し、効率的で費用対効果の高い改修計画とする必要がある。国の補助金にこだわらず、地方債なども含めた財源を検討し、できるだけ早期に改修できるように検討を進める。

答弁 令和6年度に、地域力創造アドバイザーに就任頂き、具体的に財源を確保した上で、早急に市民会館の大規模改修に着手したいとの覚悟である。かけがえのない仙北市民会館を今後も安全・安心に使い続けられるよう、市長として責任を持って取り組む。



■市長が責任を持って改修するとした市民にとってかけがえのない市民会館

農業・畜産振興について

質問 水田活用の直接支払交付金の条件が厳格化されお

り、5年に1度の水張りが必要となつている。この制度の撤廃や、水張りを7年、8年に1回への延長する条件緩和に向けた働きかけを、市長を先頭に当局がするべきではないか。

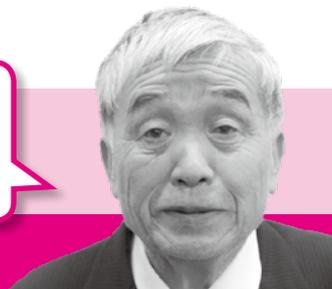
答弁 制度が成立する前に土地改良区や自治体の首長、地元出身の国会議員の方々に、現実的ではないと話をした

が、水田に対しての支払交付金で、水田でなければいけないということから、政府で制度を確立した経緯がある。実態に対し厳しい制度と今でも思っており、引き続き是正について何とか要望していきたい。この声は全国からまた上がってくると思うので、今後もしっかりと取り組んでいきたい。

質問 仙北和牛の銘柄確立、ブランド化を図ることが農業振興の一役を担い、かつ、新たなふるさと納税の返礼品にも繋がっていく。市内の飲食店、宿泊施設で、市内で育った牛が食されるということは、仙北市内の経済の拡大にも繋がる。本来は農林商工部で進めていくことが求められる姿ではないかと考えるが見解を伺う。

答弁 ここに来なければ食せないような、魅力ある食材、食文化もふるさと納税に当然繋がってくる。日本だけでなく、海外の方々も日本の和牛を求め、旅行もされている。市としても、このような食のブランド化を目指し、稼げる農業に繋がるので、しっかり支援していきたい。

（小田島広仁記）



高久昭二 議員

庁舎移転集約のメリットは何なのか

市長

中長期的な視野に立った庁舎運営が可能となる事である

仙北市本庁舎機能移転集約(案)について

質問 仮称仙北市角館上野庁舎移転集約(案)のメリットは何なのか。また、デメリットは全くないのか。

答弁 メリットとしては、中長期的な視野に立った庁舎運営が可能になることや、人口減少、財政の縮小など、時代の変化に対応できることである。築65年を目前に庁舎の運用に見直しをつけ、よりコンパクトな庁舎運営へスムーズに移行するための土台を、最も有利な財源で構築し、将来に負担を先送りしない選択が可能になることや、危険な公共施設の解体が可能なことなどである。

デメリットに関しては、災害時の初期対応や現在の場所が本庁舎でなくなることによる対応力低下等について懸念する声があるが、意見を踏まえ、移転集約後



■住民サービスは低下させずメリットを最大限生かして集約を

の不安を解消する提案を示せたと思っている。

質問 本庁舎移転集約に伴う、市民に対する影響は何なのか。

答弁 市民説明会では、身近な庁舎が無くなることに對して不安を抱える市民がたくざんいることを切に感じた。防災や対応力の低下の懸念を払拭し、将来の明確な見通しや、市民生活を守るために必要な財源の確保に向けた道筋を示すことで市民生活に与える影

響をなくし、今回の移転・集約が市民のために行うことである旨、御理解いただけると確信している。

歴史的文化的遺産(有形・無形文化財)の活用について

質問 角館伝建群地区以外に位置する史跡(旧芦名家兵具庫)の保存活用について、どのような考えているのか。また、黒倉遺跡・遺物の保存の状況は。

答弁 旧芦名家兵具庫については、仙北市文化財保護審議会の答申を受け、令和4年12月28日付で仙北市指定文化財の解除している。今後の存廃については、所有者の意向によるものと考えている。田沢湖卒田の黒倉遺跡は、縄文時代前期・中期の遺跡で、この付近の中心的集落であったことが分かっている。土器や石器なども多量に出土し、30種が黒倉遺跡出土品として市の有形文化財に指定され、土偶は秋田県有形文化財に指定されている。

JR田沢湖駅2階に、森と遺跡の展示室を整備し、黒倉遺跡、湯前遺跡を含む田沢湖地域の縄文時代の暮らしを知

ることのできる空間となっている。仙北市には有形無形の文化財が数多く存在することから、身近な地域の文化遺産に触れる機会を増やすため、教育委員会との連携を図っていきたいと考えている。

仙北市地場産業の振興を指して

質問 地元地場産業(製材工場等)の振興を指すためにどのような考えているのか。また、田沢湖生保内の黒沢工業団地の企業誘致と利活用については、どのような考え

答弁 林業に関しては、様々な情報を仕入れながら振興を図り、仙北市の雇用の確保を目指していきたいと考えている。黒沢工業団地の活用策については、ある企業から進出に関しての照会があったが、本市が目指す雇用を前提とした活用方法と乖離があるため、断念した経緯はある。引き続きトップセールス活動などを行い、企業誘致に向けて活動を継続していく。

(真崎寿浩記)

電気自動車（EV）の 充電スタンド設置は考えていないのか

蒼生会 小林 幸悦 議員



市長

民間事業者のアプローチもあり、 国の補助金も活用し前向きに検討する

仙北市のほ場整備状況について

質問 ほ場整備事業について、事業採択となり事業が始まるのは何地域あり、面積はどの位か。

答弁 現在事業採択予定となっているのは、大瀬蔵野地区の1地区で、面積は48・4haとなっている。令和3年度から令和5年度にかけて調査を終了し、令和6年度事業採択で実施計画を予定している。面工事は令和7年度から開始し、令和11年度の完了を見込んでいる。

質問 現在事業採択に向けて取り組んでいる地区と面積、整備事業実施までの期間について伺う。

答弁 現在、県の管理計画に登録している地区は、角館の広久内前田地区、西木の佐曾田・堂村地区、長戸呂地区、田沢湖の上真崎野地区の4地区で、総整備面積67haの見込みである。

期間については、調査期間に3年が必要で、その後採択となり、面工事に移行するため、ほ場整備面積にもよるが、工事完了まで、約10年の期間が必要となる。

質問 今後の整備事業は、農地中間管理機構関連農地整備事業が主流になっていくのか。

答弁 農地集積加速化整備事業は、事業費に対して地元の負担金7・5%が必要となるが、農地中間管理機構関連農地整備事業は、地元の負担金が無いことから、地元へのメリットが高いと考えられるため、秋田県としても現在はこちらを推進している。また、基盤整備を願う地域の方々の一番の悩みは、要件のハードルが高いことですが、地域の合意形成を図り、整備される地区と相談し、地域の協力を頂きながら整備を進めていきたいと考えている。

公用車におけるカーボンニュートラルの取り組みについて

質問 新たな充電スタンドの設置は考えているのか伺う。

答弁 急速充電器の設置費用は高額で、500万円から700万円が相場である。導入に係る経費、電気料金、メンテナンス費用、保険料など、年間数十万円から数百万円程度必要となる。充電サービスを提供していた時期もあった

が、利用者は稀であったこともあり、環境政策、インフラ整備を優先し、充電スタンドの設置は行わないこととした。

しかし、他自治体の現況を調査したところ、自治体主導での設置は殆ど無かったが、土地のみを提供し、設置や充電サービスについては、民間が有料で実施している事例が多くあった。現在、設置について国の有利な補助金もあり、民間事業者からのアプローチもあるため、設置について前向きに検討したい。

質問 現在仙北市には何台のEV車を所有しているのか。

答弁 現在3台所有しており、いずれも平成23年から平成27年式の車両で、すでに8年から13年経過しており、1時間以上の走行には不安がある状態である。

質問 国の方針で2035年には、ガソリン車の新車販売を廃止するようだが、公用車



■復活なるか 電気自動車の充電スタンド

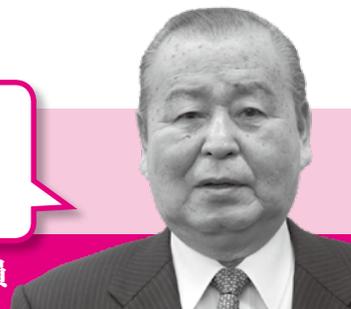
の対策は考えているのか。

答弁 仙北市としても、カーボンニュートラルの実現に向けて、財政面なども考慮して、今後の車両更新は、プラグインハイブリット車やハイブリット車などの電動車の導入を検討していきたい。

質問 仙北市は、何台の公用車を所有しているのか。また、カーナビ、ドライブレ

コーダーの装着状況を伺う。
答弁 特殊車両も含めて、227台を所有またはリースしている。カーナビは25台、ドライブレコーダーは、23台装着している。事故やトラブル対応のため、装着について統一を図りたいと考えている。

(中村和彦記)



蒼生会 青柳 宗五郎 議員

昨年7月の大雨災害の復旧状況はどの程度進んでいるのか

市長

令和6年度への繰越しも多いが 農業設備は作付けに間に合わせる

昨年7月の大雨災害の復旧状況について

質問 農林部、建設部等災害の復旧はどの程度進んでいるのか。

答弁 小黒沢ため池とそれに係る水路、農道については年度内完成が困難となったことから繰越し予定だが、令和6年度の作付けに合うよう努力、対応する。林道堤沢線は冬季間の施工となることから、令和6年度へ繰越し予定である。

難なことから、令和6年度に繰越し予定である。

市単独事業では2月末時点で道路、橋の復旧では16路線19箇所のうち4箇所を残し完成済みである。

質問 現在、まだ通行止めとなっている市道はあるのか伺う。

答弁 現在も通行止めの市道は、令和6年4月末規制解除予定の山谷川崎黒沢線、同年5月末規制解除予定の小山寺

下田線、大仙市での復旧工事待ちの八割大沢線の3路線である。

災害対策について

質問 防災関係で避難所の環境や備品等の不足が言われているがどうなっているのか。

答弁 避難所に指定された下延及び八割コミュニティセンターへのクーラー設置工事は終了し、神代就業改善センターは3月19日の工期となっている。

避難所のベッドは段ボールベッドではなく、組み立て式の簡易ベッド45台を準備した。備蓄品の不足分は3月末までに納入予定であり、その後それぞれの箇所に配備する。

給水車1台も加圧式に更新予定である。

質問 能登半島地震の復旧状況をみると、水道の復旧に難儀しているが、仙北市としての水道の耐震化についての考え方を伺う。

答弁 地震等の災害時は可能な限りの給水を維持するため、水道施設の耐震化について早急な対応が必要である。仙北市は水道管全体の1/3が耐用年数を超過しているこ

とから、令和6年度から、国庫補助事業と併せて市単独事業により、水道設備の耐震化率向上に努めたいと考えている。

ふるさと納税について

質問 ふるさと納税が過去最高額となっているがその内訳を伺う、また一部を目的税として利用する考えはないか。

答弁 返礼品の主な内訳として、米が82%、食品加工品が8%、麺類が4%の内訳である。

寄付を頂く際に、①田沢湖再生②高齢者③子供④歴史・文化⑤観光⑥自治体におけるの中から指定をいただき、寄付者の意向に沿った使い方をして各事業の予算に充当しており、市の予算を成立させる為の重要な財源となっている。

本来であれば、ご指摘のとおり、ある目的に沿った財源として活用すべきと考えるが、現状は異なることを理解いただきたい。

(荒木田俊一記)



■今年の水稲作付けに水の確保は間に合うのか (昨年7月の大雨で決壊した中川地区小黒沢ため池)

林道の復旧は、37路線を3工区に分けて発注しているが、進捗率が37.5%から81.8%であり、年度内完成は困